

「社会福祉基礎」で専門家の授業を行いました

～障がい者体験：サンビレッジ国際医療福祉専門学校 介護福祉学科の先生の授業を受けました～



5月12日（木）2限、昨年度開講した3年生の選択科目『社会福祉基礎』の授業をサンビレッジ国際医療福祉専門学校のご協力のもと、本校錬心館（武道場）にて行いました。授業内容は『障がい者体験』です。3年2組の科目選択者16名が出席しました。その様子を紹介します。

社会福祉基礎担当の佐藤 陽子先生より、本時の講師である介護福祉学科教員 小泉 祐子先生（介護福祉士）の紹介の後、小泉先生から本時の目標と内容について次のように説明がありました。「この授業では相手の立場に立つことを学びます。福祉や医療の対象となる方の中には身体や精神の障がいをお持ちのことがあり、日常生活に不自由さを持っておられます。不自由さを持つ相手の立場や気持ちになってみる体験を通してそれを実感してください。不自由になるとどんな気持ちになるのか。これから一つの障がいを体験することにより、相手の立場や気持ちを知り、福祉の精神やマインドに近づいていきます。今日は光や物が全く見えない、目が見えない体験をします。後で感想を書いて、体験を共有しましょう。」



【『社会福祉基礎』の授業の始まり】

佐藤先生の紹介の後、小泉先生より授業の目標と内容について説明を聞きます。



【体験活動①】

- ・ペアをつくり、一人がアイマスクをします。
- ・アイマスクをした人が武道場の端まで歩きます。
- ・ペアのもう一人の声だけの助けで歩いてみます。
- ・端まで行ったら役割を交替し、逆向きに端から端まで一人で歩きます。

《みんなとても不安で、なかなか前に進めません》



小泉先生：「皆さんは、ここには障害物がないことを知っているから歩けたはずですが、もし、家の外だったらどうでしょうか？」





【白杖（はくじょう）の説明】

小泉先生：「今度は、白杖を使い、武道場の端まで歩きます。白杖は、目が見えない方が使う杖です。体を支えるものではなくて、先端を地面や壁に付けたり、探ったりしながらセンサーとして使います。携帯用白杖で、ゴムを手首にかけます。白杖を使いながら、交互に端から端まで移動してみてください。」



【体験活動②】

- ・ 武道場の中に障害物の椅子を置きます。
- ・ ペアの一人がアイマスクをつけて白杖を使い、もう一人がガイドとなり、椅子を避けながら武道場の外までガイドしていきます。
- ・ 武道場の扉の階段に注意しながら外に出て、もう一つの扉から中に入ります。
- ・ 元の位置に戻ったら、役割を交代します。



【体験活動③】

今度は、ガイドの基本に基づいてガイドできるように、小泉先生が生徒の一人と見本を見せながら説明します。

- ・ ガイドは右手を伸ばし、半分重なるように、視覚障がい者の斜め前に立ちます。そして自分の右ひじを障がい者に持ってもらいます。
- ・ 角を曲がる時は直角に曲がります。
- ・ 障害物を「あれ、それ」ではなく、具体的に教えます。例えば「3m前に折り畳み椅子があるので、そこを右に曲がります。」
- ・ 椅子に座らせる時は、座面の広さと背もたれの有無を確認させてから座ってもらいます。



先生の説明の後で、再度、見本に従ってガイドを行い、武道館から外に出てから中に入ります。途中3分ずつで交代します。

《信頼できるペアの人のガイドで、障害物や段差を避け、上手に誘導ができました》





【体験の振り返りと感想発表】
アイマスクをして歩いた、3つの体験について、感想を記入します。その後で、一人ひとり感想を発表します。

- 体験①：何もなしで歩く。
- 体験②：白杖を持ち、ガイドに指示してもらいながら歩く。
- 体験③：白杖を持ち、ガイドのひじを持って誘導してもらいながら歩く。



授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

「ガイドも白杖もないと、歩くのがすごく不安で、一步進むだけでも恐怖心を大きく感じました。ガイドの時はひじを持ってもらって案内すればよいと初めて知ったので、これからは案内する時があれば実践したいと思いました。何も見えないのはものすごく不安で、耳と杖が頼りになると身をもって感じました。案内する時、はっきりとした声で話すことが重要であると分かりました。将来、介護の仕事に就きたいので、今日体験したことをよく覚えておきたいです。」

「目が見えないと距離が分からなくて、どのくらい歩いてどこに障害物があるか気をつけながら歩いていくのは大変でした。階段を歩く時、どのくらい足を上げて歩いていけばいいのか分からなかったで、ガイドがついていてもゆっくりとしか歩けませんでした。椅子に座る時もしっかりと確認をしていかなければ、うまく座ることが出来ませんでした。普段、自分が簡単にやっていたことでも、目の不自由な人には大変だということが分かりました。白杖は便利だと分かりました。」

「真っ暗の中、何の支えもなしに歩くのはすごく怖くて、私だったら怖くて外に出られないと思った。白杖を使ってみると、周りに何があるのか分かってすごく安心しました。声掛けもあった方がすごく安心するし、さらに人につかまりながらガイドしてもらおうと、最初の時より全然怖くありませんでした。体験してみて、目が見えないことがどれほど怖いかわかりました。そういう方を見かけたらガイドしてあげたいと強く思いました。」

➤ まとめ

視覚障がい体験を通して、障がいがある方々の不安や恐怖、不自由さを体験することができました。私たちには、障がいについて知らないことが多く、知らないことが偏見を生むことがあります。様々な体験を通して、まずその障がいを知ること、理解することが大切です。そして、相手の立場に立って考えることでその方たちとの関わり方が見えてきます。今後は、困っている人に手を差し伸べたいという気持ちだけでなく、どのように手を差し伸べたらいいのかを考えて行動できる人になってほしいと思います。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～